

西脇病院

地域に信頼される良質な医療を提供します
 (22:0111) http://nshp.jp/



健康バンザイ

95

西脇病院の医師が健康や病
 気に関するさまざまな情報
 を提供します。

血液検査結果について

血液内科部長
 松井 利充

血液内科では難治性の貧血や血液のがん（白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫）、出血が止まらない病気（紫斑病）を扱っています。これらの血液病は必ずしも頻繁に見られるものではありませんが、皆さんが一生で一番多く受ける検査が血液学的検査です。

血液細胞には白血球・赤血球、血小板の3つがあり、この血球数を調べる検査は、学校や職場での健康診断・町ぐるみ健診や人間ドックなどでも必ず行われます。というのは、血液細胞の数は多くの病気で増えたり減ったりするからです。白血球は細菌やウイルスと闘い感染症からヒトを守る働きがあり、赤血球に含まれるヘモグロビンは肺で取り込んだ酸素を体のすみずみまで運搬します。血小板は破れた血管壁の穴を塞ぐなど止血作用があります。これら血球の働きが低下すると、それぞれ発熱、労作時の息切れや動悸など貧血症状、出血傾向などの症状が見られます。しかし、重症にならないと症状が現れないこともあります。西脇病院で渡される検査結果は英語の略語で書かれていますが、WBCが白血球数、RBCが赤血球数、Hb gがヘモグロビン値、PLTが血小板数を表しています。異常があれば、現在かかっている病気との関連を聞かれても良いと思います。検診にて異常値の通知を受けたまま放置している方は近くの開業医さんでも調べていただければ、再検査を受けてください。

次回からは「貧血」「血液のがん」「血小板が少ない」と言われたらどのようにすべきか連載で解説します。

▼薬剤部から▲

前回は医療用麻薬における誤解について紹介しました。今回は医療用麻薬の種類と副作用について紹介します。

医療用麻薬には飲み薬（錠剤、カプセル剤、水剤、顆粒剤、散剤）、貼付剤、坐剤、注射剤などさまざまな種類があります。中でも飲み薬は医療用麻薬の投与経路として第一選択となります。世界保健機構（WHO）でも、まず飲み薬から始めることを推奨しています。しかし、内服が難しい、副作用のため継続が困難な場合には、患者さんに合った投与経路や製剤を選択します。

■飲み薬

一般に、持続する痛みに対しては徐放剤（効果がゆっくり長く続く製剤）が使われま

す。食事に関係なく、基本的には12時間または24時間ごとの服用となります。また徐放剤を服用していても、突然痛みが現れることがあります。その際は速放剤（効果の発現が早く作用時間の短い製剤）を頓服として使用します。これはレスキュードーズと呼ばれています。

■貼付剤

貼付剤は胸部や前腕などに貼ることで、皮膚から吸収されて全身作用を現します。適切に貼付しないと期待した効果が得られなかったり、発熱時や熱いお風呂につかるなどと吸収量が増えることがあるので注意が必要です。1日に1回貼り替えるタイプと3日に1回貼り替えるタイプ

のものがあります。

■坐剤

坐剤は肛門からの投与によ

り、薬が直腸から吸収されて全身作用を現します。飲み薬の使用が困難になった場合などに使われるほか、レスキュードーズとしても使われます。

■注射剤

注射剤は入院中だけではなく、医師等の指導により、PCAポンプという器具を使って持続注射の形で在宅においても使用できます。

医療用麻薬も薬である限り、他のお薬と同様に副作用があります。その中でも次の3つは現れやすい副作用です。

■便秘

便秘は、医療用麻薬を使用している人のほとんどにみられ、医療用麻薬を使用している間はずっと続きます。医療用麻薬を使い始めたときから下剤を使用して対処します。

■吐き気・嘔吐

吐き気・嘔吐は、医療用麻薬を初めて使用したときや薬の量や種類を変更したときに、数日〜2週間程度みられることがあります。その後吐き気止めのお薬は減量・中止も可能です。

■眠気

眠気は、医療用麻薬を使い始めたときや、量を増やしたときに見られることが有ります。通常は数日〜1週間程度で軽減します。その後も眠気が続いたり、ぼーっとする症状が強い場合は、医療機関にご相談ください。

医療用麻薬は、がんなどの

症状の多くは吐き気止めのお薬で抑えることができます。

痛みに対して非常に有用なお薬です。しかしながら医療用麻薬を使用することをためらい、痛みを我慢される患者さんがおられるようです。痛みを我慢することはストレスとなり、体にも精神的にも良い影響を与えません。前回も紹介しましたように、医療用麻薬は指示を守って使用すれば、安全にまた良質な痛みの治療を行うことができますので、辛い痛みは我慢しないでください。ご不明な点は、医療機関にご相談ください。

▼西脇病院「健康セミナー」▲

毎月1回、西脇病院医師による「健康セミナー」を開催

しています。

▼とき 11月18日(月)

午後3時、1時間程度

▼ところ 病院講堂(2階)

▼講師 血液内科医 松井利充

▼演題 血液のがん

▼参加費 無料

▼問合せ 病院総務課

(病院内線366)

▼エントランスギャラリー▲

小林彩紀さんのイラスト・粘土細工の展示を行います。

▼とき 11月1日(金)〜29日(金)

▼ところ 西脇病院エントランスホール

▼問合せ 施設管理課

(病院内線363)

▼にしわき乳がん市民公開講座▲

「はなみずきの会」は、公益財団法人正力厚生会の平成25年度のがん患者団体助成対象に選ばれ、補助金をもとに「第1回にしわき乳がん市民公開講座」を開催することになりました。

▼とき 11月30日(土)

午後1〜4時

▼ところ 西脇病院講堂

▼内容 「遺伝性乳がんについて」昭和大学病院 臨床遺伝医療センター 認定遺伝カウンセラー 四元淳子先生▽「乳がん術後の乳房再建について」大阪大学医学部形成外科 教授 矢野健二先生

▼参加費 無料

▼申込方法 所定の申込用紙を郵送いただくか、メール(hanamizukinokai_door@yahoo.co.jp)にお名前と連絡先(携帯電話番号またはメールアドレス)を記載し送信してください。

▼その他 チラシは西脇病院ほかで配布(病院のホームページからもダウンロード可)。当日参加も可能です。

▼問合せ 乳腺外来 三輪ま

で。

■外来診療担当医師変更のお知らせ

診療科	月	火	水	木	金
総合内科(初診)	木村 祥子 来住 稔	稲垣 忠洋 鈴木 琢真	平田 珠希 日下 聡	小出 亮 中川 嘉宏	武地 美保 柏木 貴雄
再診1	稲垣 忠洋		福永 秀行	武地 美保	来住 稔 (糖尿)
再診2	小出 亮 (消化器)	岩井 正秀 (肝臓)	木村 祥子 (消化器)	岩井 正秀 (腎臓)	平田 珠希 (消化器)
再診3	日下 聡	中川 嘉宏	鈴木 琢真	柏木 貴雄	樋口 泰雄
専門外来	船田 泰弘 (呼吸器) (予約・紹介患者様のみ)	木戸 良明 (糖尿) (予約・紹介患者様のみ)	来住 稔 (糖尿併症) (予約・紹介患者様のみ)		中井健太郎 (腎臓) (予約・紹介患者様のみ)
循環器内科	名村 宏之	島雄隆一郎	大柳 光正 (予約・紹介患者様のみ)	島雄隆一郎	担当医 (初診・予約患者様のみ)
	櫻本 博也	名村 宏之			担当医 (初診・予約患者様のみ)

西脇小児医療を守る会コラム 63

ママにだって
 できるんだよ!!



フォーラムに参加しました

10月3日に加西市にて『地域医療市民フォーラム』が開催され、活動報告をしました。

平日ですが、多くの方が参加されており、加西市の地域医療への関心の高さを感じました。

また、「北播磨総合医療センター」が開院し、今後の地域医療がどうなっていくのかなど、考え学ぶフォーラムとなりました。



▲地域医療市民フォーラムに参加

守る会では、救急医療機関を利用する前に気をつけて欲しいこととして、『かかりつけ医を持つこと』や『早めの受診を心がけること』などをお伝えしています。小児科に限らずどなたにでもできる事だと思います。私たちと一緒に、地域の医療を市民の手で守っていきましょう。

◆問合せ 西脇小児医療を守る会
 ☎090-8538-1337 石井
 http://www.kodomonomirai.com
 info@kodomonomirai.com

西脇多可休日急患センター

◆ところ 西脇市下戸田652-1 西脇病院救急外来室
 ◆診察日 日曜日(年末年始を除く) 午前9時〜午後5時
 ◆問合せ ☎23-5380

※病状やけがの様子など、電話であらかじめご連絡ください。必ず健康保険証を持参ください。

11月の出務予定医師	
11月 3日(日)	山本 壽幸 先生
11月10日(日)	生野 哲雄 先生
11月17日(日)	林 武志 先生
11月24日(日)	矢持 健 先生